

# 面会について考える

5階西病棟

○宇治橋由美・尾崎 暁子・多田 邦子

山本 定子・藤丸香代子

他スタッフ一同

## I はじめに

患者は、入院することにより病室という限られた環境におかれ、それまでの日常生活上の社会的交流は中断されて病院に訪れる面会者が唯一の交流の窓口となる。

本院では面会時間を定めて、来院する面会者に対して制限をしている。しかし面会者はそれを知らずに来院することが多く、面会時間外に面会を希望してくることもたびたびある。そのような面会者に対し、私達看護婦は面会時間まで待ってもらったり、事情によっては面会時間外でも面会を許可したりと様々な対応をしてきた。しかし看護婦の個人差や面会者の態度等からそれらの対応はまちまちであり、また看護婦自身も現実と建て前の狭間でジレンマを感じている。これらの要素から、面会に関する当病棟の現状やその現状に対する入院患者の反応を把握して、私達看護婦の面会に対する意識を高める必要があると考えた。

そこで今回私達は、面会者と入院患者との橋渡し役である看護婦としてより良い対応をめざす為に、当病棟での面会の現状を知り面会と入院患者のかかわりについて考察することとした。

## II 研究方法

### 1. 文献学習

### 2. 入院患者への聞き取り調査

- 1) 期間；平成2年8月1日から平成2年8月31日
- 2) 方法；看護婦が質問紙に沿って行う。
- 3) 対象；5階西病棟に7日以上入院している患者50名

### 3. 面会状況の調査

- 1) 期間：平成2年8月8日から平成2年8月14日
- 2) 方法：面会者に面会者名簿を記入してもらい、時間帯ごとの面会者の数と面会時間を調べる。

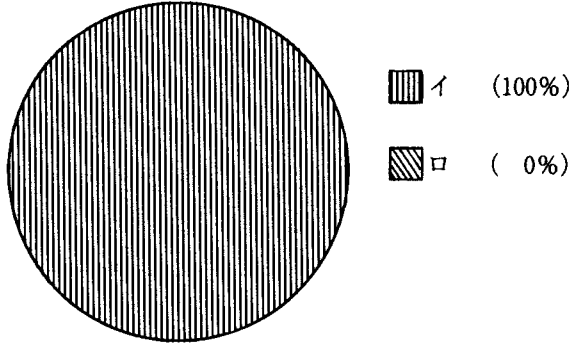
以上の調査の結果をもとに考察をすすめていった。

### Ⅲ 結 果

#### 1. 入院患者への聞き取り調査の結果

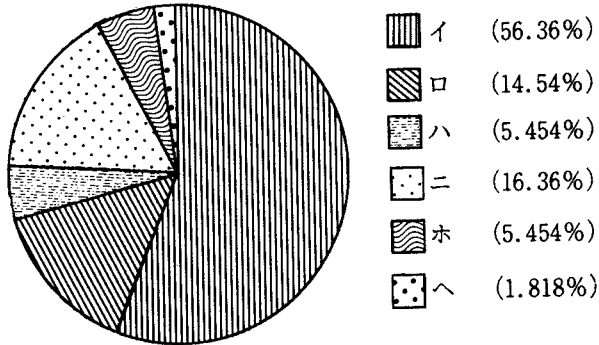
(1) 病院の面会時間があることを知っていますか。

イ. 知っている    ロ. 知らない



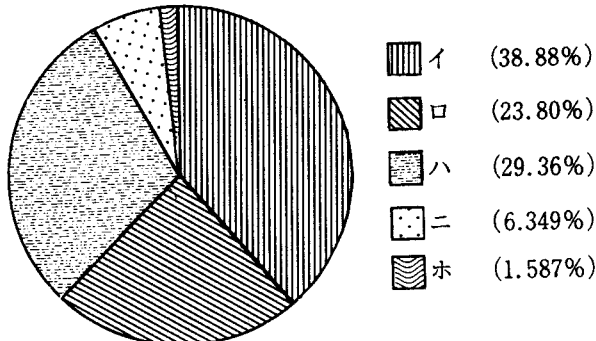
(2) 面会時間をどう思いますか。

イ. 適切である    ロ. ない方がいいと思う    ハ. もっと長くしてほしい  
ニ. 早い時間にしてほしい    ホ. 遅い時間にしてほしい    ヘ. その他



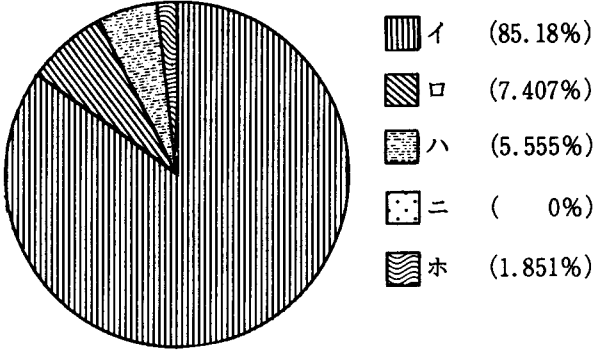
(3) あなたと面会に来る人との関係を教えてください。

イ. 家族    ロ. 友人・知人    ハ. 親戚    ニ. 職場の人    ホ. その他



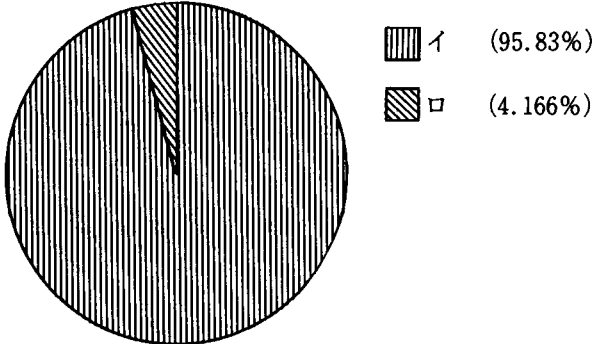
(4) あなたは面会者が来た時どう思いますか。

イ. うれしい    ロ. 別になんとも思わない    ハ. 面倒くさい  
ニ. 会いたくないのでこないでほしい    ホ. その他



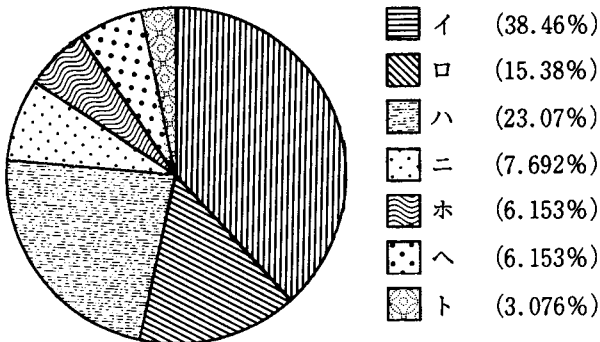
(5) 他の患者に面会者が来ているのをどう思いますか。

イ. 気にならない    ロ. 迷惑である



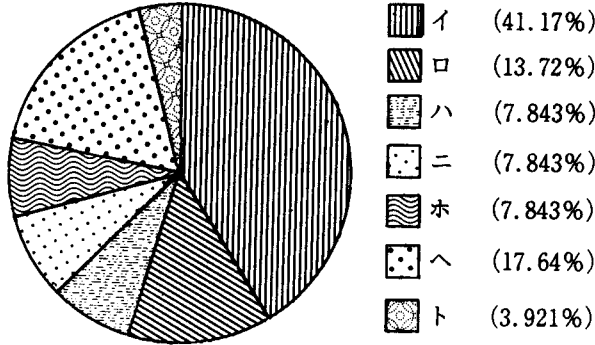
(6) あなたに面会者が来て困るのはどんな時ですか。

イ. 具合が悪い時    ロ. 眠い時    ハ. 検査のある時    ニ. 大勢来た時  
ホ. 食事時間中    ヘ. 長居する時    ト. 子供を連れてきた時



(7) 同室の患者に面会者が来て困るときはどんな時ですか。

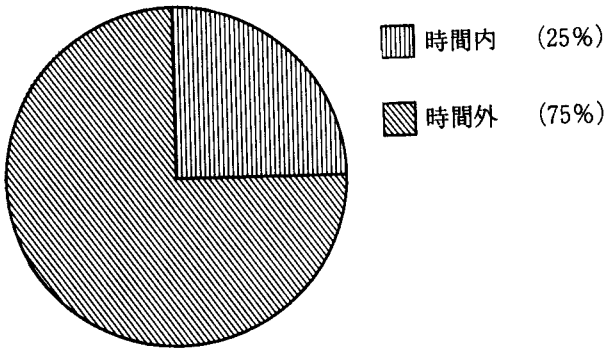
- イ. 具合が悪い時    ロ. 眠い時    ハ. 検査のある時    ニ. 大勢来た時  
ホ. 食事時間中    ヘ. 長居する時    ト. 子供を連れてきた時



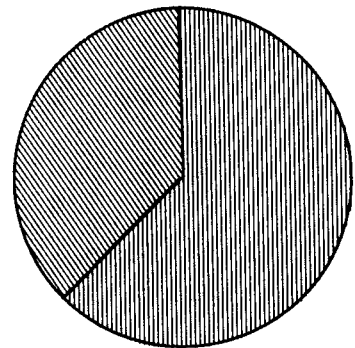
2. 面会状況の調査結果

(1) 面会時刻

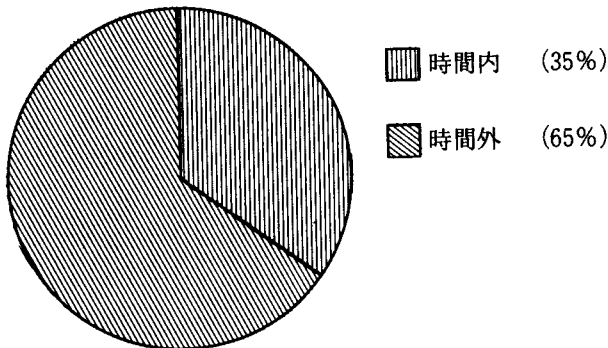
平日



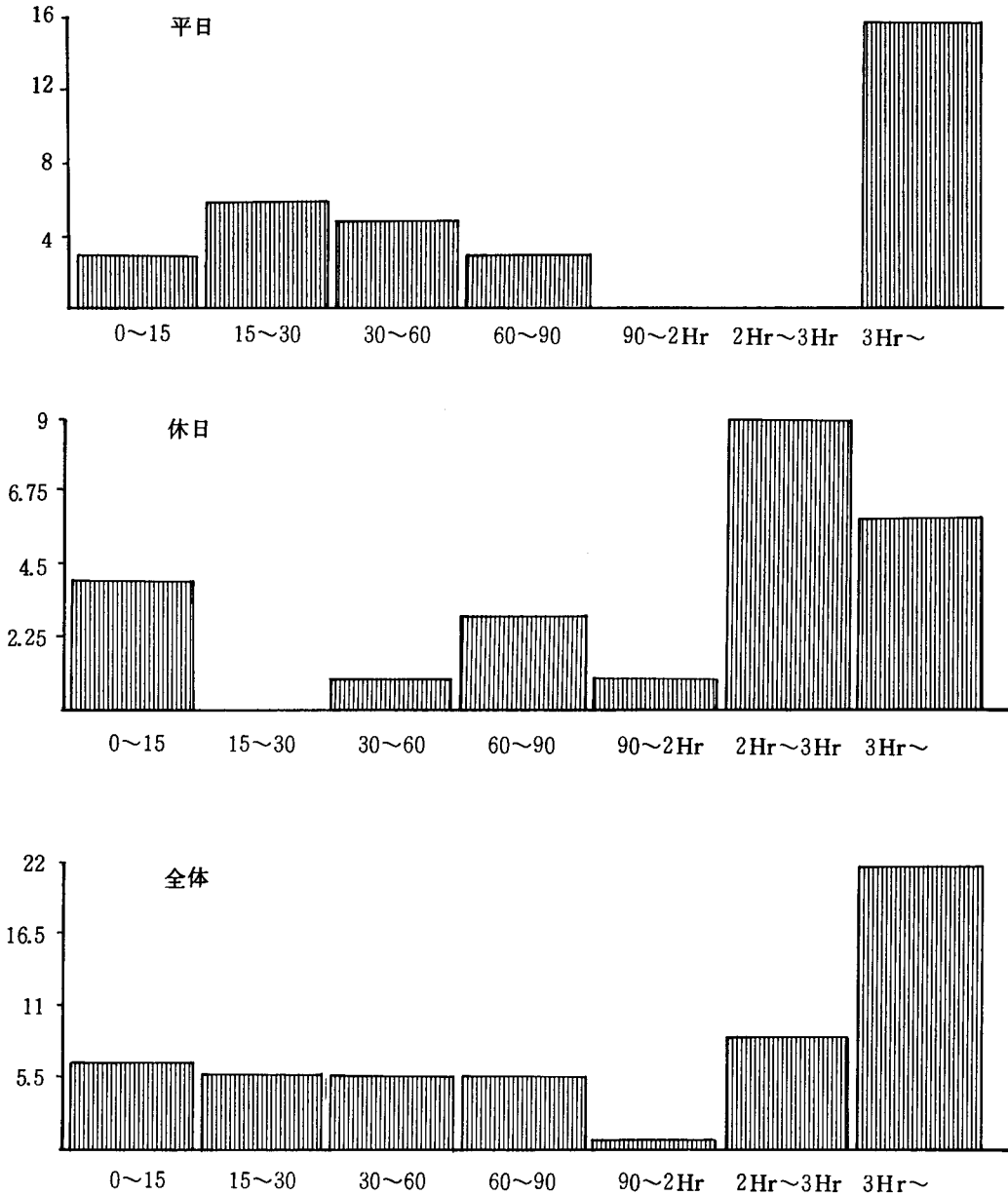
休日



全体



(2) 面会時間



IV 考 察

当病棟では、入院時のオリエンテーションで面会時間について入院患者に説明を行っている。そのた

め入院患者は、面会時間について100%知っているにもかかわらず、面会時間が守られていないのが現状である。その要因として考えられるのは面会者が面会時間を知らない、遠方からの面会である、仕事の関係上面会時間に合わせられない、入院患者の検査や医師のムンテラがある等である。入院患者の多くは、面会時間が適切であると答えているが、反面、延べ21人が時間に対して融通を持たせるよう希望している。また、家族、親戚、友人、知人など事前に面会時間を伝えられる人の面会が多いにもかかわらず時間外の面会が多いことなどから、入院患者や面会者にとって現行の面会時間が適切であるとは言い切れない。休日と平日の面会状況の比較を見てもわかるように、休日は時間帯もはやく幅もあるため面会時間も比較的守られている。

一方、入院患者は、自分あるいは他の入院患者への面会をどのように捉えているだろうか。聞き取り調査の結果からもわかるように、入院患者への面会は、家族、親戚、友人、知人などごく親しい関係の者が殆んどを占めている。入院患者の多くは、これらの面会を嬉しいと感じており拒否的な感情はあまり持っていない。特に、内科病棟であるため、慢性疾患で長期療養している者や、自覚症状の少ない者もあり、退屈で社会から隔てられた入院生活における唯一の楽しみ、活力の素、所属の欲求を満たすものになっていると思われる。同様に、他の入院患者の面会についても殆んどが気に入らないと答えており、迷惑と答えている者は少数であった。しかし、入院患者も具合の悪い時や、検査のある時、眠い時などは面会に対して消極的であることもわかった。このことは、他の入院患者への面会の場合にも同様であるが、自分の面会の時より感じ方が弱く、入院患者はある程度我慢していると思われる。

私たち看護婦は、以上のような要因をふまえ、入院患者と面会者との媒体として今後のより良い対応を考えていかねばならない。B. S. Heaterは、面会に対する基本的な前提について次のように述べている。『(1)患者が生理学的に危険な時程、恐怖は大きく、重要他者からより多くの情緒的支援を必要とする。(2)家族の相互作用は、スタッフと患者の相互作用よりもストレスが少ない。(3)家族の面会を制限するのは、患者に休息を与えるためであるというのは、つくりごとである。(4)患者と家族は入院にあたって、放棄される必要のない権利をもっている。』<sup>1)</sup>さらに今回の聞き取り調査でも、面会が入院患者にとって有益であることがわかった。現在、面会時間が決められているが、上記のような理論と現状をふまえ、状況に応じて融通をきかせていく必要があると思われる。私達看護婦は、精神面への援助をしていく上で、医療従事者だけでなく、面会者にもサポートシステムの一員として協力してもらうよう働きかけていく必要がある。特に、末期の入院患者や不安の強い入院患者への看護では、この援助がさらに重要である。この援助が円滑に行われるためには例えば面会時間の変更や廃止などの根本的な見直しが望まれる。

しかし、状況によっては、面会を制限しなければならない時がある。入院患者が、面会者に会いたくない時や入院患者が面会を了解しても、客観的に見て面会に適さない時などである。聞き取り調査では、入院患者が面会を拒否的に感じる時として、具合の悪い時や検査がある時をあげている。これらは看護婦側の情報としてすでに把握できているため、面会を制限する際の判断材料として活用することができる。また、意識レベルや思考力の低下している入院患者に対しては、面会者に対して時間の制限をしたり、刺激を与えないように助言するなどの配慮が必要となってくる。今まで面会に適さない状況を主に看護婦側の推測で判断して対応していたが、今回入院患者の意見が直接聞けたことでさらに確かな判断

材料として生かしていけると考える。

## V おわりに

今まで私達は医療従事者という立場から、患者の安静を守るためや、処置・検査の支障にならないように、面会時間を定めて、それに疑問を感じながらも、面会時間を守るように働きかけてきた。面会は、患者の治療、看護を妨げるものとして捉えられがちだが、今回の研究を通して、むしろ面会には患者の精神面の支えとなる有効な面が多いことがわかった。また、当病棟では、時間外の面会があっても、検査・処置に支障をきたすほどの問題は起きなかった。これらのことから、私達看護婦は、より患者に近い立場から面会を捉え、患者のニーズを満たすために、働きかける必要がある。そのためには、現行の面会時間にとらわれることなく、面会の重要性を考え合わせた上で、患者にとって快適な入院生活が送れるよう援助していくことが望まれる。しかし、考察でも述べたように、全ての面会が有効であるとは言えないため、面会をむやみに許可するのではなく、第三者の立場から、看護婦が適切な判断をしていかなければならない。そのために、私達看護婦は、今回の研究結果を手掛かりに、面会に対する意識を高め、この判断力を養っていくべきである。

## 謝 辞

最後に、本研究を行うにあたり、ご協力いただきました当病棟の患者の皆様方、及びご面会の方々に深く感謝致します。

## 引用文献

- 1) ワーキング・スマート検討会：ワーキングスマート第4回面会，ナーシングトゥデイ，P.66～69，1990，7．

## 参考文献

- 1) 日常ケア研究会編集：CHECK it up ②日常ケアを見直そう，医学書院，1987．
- 2) ワーキング・スマート検討会：ワーキングスマート第4回面会，ナーシングトゥデイ，P.66～69，1990，7．
- 3) 小川圭子：面会は許してあげるものなのか，看護学雑誌，48(11)，P.1212～1215，1984．
- 4) 近森美美子：入院患者にとっての面会の意味を考える，看護実践の科学，P.18～22，1986，11．
- 5) 正野逸子，鈴木園子：終末期患者における面会の活用，看護実践の科学，P.23～27，1986，11．
- 6) 江上芳子：入院生活に面会の制限は必要か，看護実践の科学，P.28～32，1986，11．
- 7) 川崎英子：入院生活に面会の制限は必要か，看護実践の科学，P.33～36，1986，11．
- 8) 山田京子：ICUにおける面会の調整，看護実践の科学，P.37～40，1986，11．